

# 日本プロセス化学会第 43 回理事会議事録

日時 令和 4 年 6 月 29 日(水) 16 : 30 ~18 : 00  
場所 富山県民会館 6 階 612 号室  
〒930-0006 富山県富山市新総曲輪 4-18

## 議題

### 1 確認・報告事項

- (1) 第 40 回(2021 年 6 月 18 日~6 月 23 日メール開催)、第 41 回理事会議事録(2022 年 3 月 17 日~3 月 23 日メール開催)、第 42 回理事会議事録(2022 年 5 月 12 日 Zoom 開催)が承認された

学会 HP に掲載済、「2021 サマーシンポジウム (2021 年 6 月 24 日 (木)、25 日(金) オンライン開催)」、「2021 ウィンターシンポジウム (2021 年 11 月 26 日 (金) オンライン開催)」、「PACIFICHEM 2020 (2021 年 12 月 16 日~22 日 オンライン開催)」、「第 15 回プロセス化学ラウンジ中止」も報告済。

- (2) 役員移動が承認された (新任理事の紹介)

- 富士フイルム和光純薬 (株) 大野桂二理事より嶋田泰宏様 (試薬化成品事業部 ケミカル開発本部 本部長) に 交代
- 大日本住友製薬(株) 佐々木幹雄理事より、福田 展久 (のぶひさ) 様 (住友ファーマ株式会社 技術研究本部 プロセス研究所 所長)に交代
- (株) カネカ 武田俊弘理事より、舟橋 誠 様 (Pharma & Supplemental Nutrition Solutions Vehicle Pharma 部 研究グループ API チームリーダー) に交代
- シオノギファーマケミカル株式会社 取締役 開発研究部長 増井義之理事より、三好 徳和 (みよしのりかず) 様(徳島大学大学院社会産業理工学研究部理工学域自然科学系教授)に交代 (東四国フォーラム選出理事)

- (3) 2022 サマーシンポジウム準備状況が承認された

2022 年 6 月 30 日~7 月 1 日 富山県民会館

中島範行理事 (富山県立大学) と清都太郎理事 (富士フイルム富山化学) のリーダーシップのもと、2022 年 6 月 30 日 (木)、7 月 1 日(金) 於 : 富山県民会館 (対面開催)、ホテルグランテラス富山 (情報交換会) で開催準備を進めている。

招待講演 学 4 名、産 4 名

事前登録 490 名、ポスター発表 70 件、企業展示 87 社、

情報交換会 212 名 (着席形式、一般会員と賛助会員に限定、マスク必須の会話スペース)。

5/16 から会費集金開始。

2 日目にパネルディスカッションを行う。

手指消毒、体温、ワクチン接種、PCR、抗原検査に関して、学会の方針を ホームページに掲載済。

《参加の前》

発熱 (37.5℃以上) などの風邪の症状が発症していないこと。

新型コロナウイルス感染症罹患の疑い、または濃厚接触者に該当しないこと。

入室時に検温を受けていただくこと。

新型コロナワクチンを3回接種済み、もしくは事前にPCR検査にて陰性証明をご取得済みの上でのご参加を推奨いたします。

《会期中》

こちらの「富山県民会館の取り組み」に従って運営いたします。

参加者同士や会場スタッフとの間隔を十分な距離を保ち、さらに受付ではアクリルボード等による仕切りを設置します。

会場における換気を継続的に実施します。会場内へ除菌液を設置しますので入場時に手の消毒をお願いします。

参加時はマスクを必ず装着願います（鼻と口の両方を覆うように装着してください）。

また、咳エチケットや手洗いなどの実施にご協力をお願いします。

体調が悪くなった場合には、無理をせずに事務局スタッフにお申し出ください。

※37.5℃以上の熱がある場合は、ご参加を控えていただきますので、ご了承ください。

#### (4) 2022 ウィンターシンポジウム準備状況が承認された

##### 2022年12月2日（金）みやこめっせ

青山恭規理事（塩野義）と高須清誠先生（京都大学）のリーダーシップのもと、2022年12月2日（金）開催予定。

京都テルサが改装休館のため、講演会場を「みやこめっせ」、情報交換会場を「ウェスティン都ホテル京都」で準備を進めている。コロナの影響等により密を防ぐ目的で、情報交換会の参加人数を制限する必要性が生じる可能性がある。また、会場費・情報交換会費が高騰するため、情報交換会費を臨時で6,000円とすることを第42回理事会（2022年5月12日 Zoom 開催）で承認戴いた。

1. 会場：みやこめっせ
2. 情報交換会：ウェスティン都ホテル京都
3. 情報交換会は250人までの着席形式（一般会員と賛助会員に限定）。マスク必須の会話スペース。
4. ハイブリッド形式導入の場合：リアル開催をしながらオンライン参加もできる形式。講演をオンラインでも配信する。（リアルに加えてオンライン開催分の費用別途110～130万円が上乗せされる。カメラ映像スタッフ、オンライン配信の使用一式）

#### (5) 第15回プロセス化学ラウンジについて報告された

ワクチンの職域接種等の状況等をフォローして、8月末までには委細の可否を最終決定する（将来計画委員会：大原委員長で検討中）。

#### (6) 2021年サマーシンポジウムについて報告された

##### 2021年6月24日（木）～25日（金）Zoom 開催（資料1：p6～10）

中島範行（富山県立大学）理事と、清都太郎（富士フイルム富山化学）理事のリーダーシップのもと準備を進め、「特別講演（12演題内：企業6、アカデミア6）」、「一般講演（応募40件超の中から選ばれた18件にオーラルでのプレゼンをして戴いた。優秀賞は1件選出）」の発表と、ランチ休憩中の「企業PRプレゼンテーション」があり、活発な討論と意見交換が成された。日本プロセス化学会員限定参加：シンポジウム参加者484名。

#### (7) 2021年ウィンターシンポジウムについて報告された

## 2021年11月26日(金) Zoom 開催 (資料2: p11~14)

清水仁(中外製薬工業)理事、海老原新一(中外製薬)先生、林雄二郎(東北大学)先生のリーダーシップのもと午前(第1部)の「特別講演(2演題)」、ランチ休憩中の「企業PRプレゼンテーション」に続いて、午後(第2部)から招待講演4演題とJSPC受賞講演1題の発表があり、活発な討論と意見交換が成された。日本プロセス化学会員限定参加: シンポジウム参加者413名。

### (8) その他

出前講義について報告された

1件(2021年度)

会員入会状況・新規入会について報告された

## 2 協議事項

(1) 2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日) 決算案について協議された

(2) 2022年度予算案について協議された

(3) 役員(執行部)の交代について協議された

現執行部、会長 佐治木弘尚、副会長 秋山隆彦(広報・会計担当)、大島正裕(企画・渉外担当)、田中規生(シンポジウム・フォーラム担当)が2017年8月2日の総会で就任して以来、5年が経過する。その間、Covid-19の蔓延により、2019年度を最期にして、2020年度のサマーシンポジウムとラウンジは中止に追い込まれ、2020ウィンターシンポジウム、2021サマーシンポジウム、2021ウィンターシンポジウムはすべてZoom開催と、F-to-Fの学会や情報交換会運営はことごとくかなわない状況が続いてきた。2021年度は、サマーシンポジウムとウィンターシンポジウム双方がZoom開催となり、ラウンジに至っては、泊まり込みと言うこともあり開催がままならない、完全な消化不良の状況に陥っている。

この点は会長である佐治木が、もっとリーダーシップを発揮して、様々な対応策を講じるべきであったと、大いに反省している。2022年のサマーシンポジウムからは、ポスト・ウイズコロナということもあり、F-to-Fの開催スタイルに戻す方向に進めたところ、参加、情報交換会、発表、企業展示ともに、予想を上回る(展示を含めてお断りしなくてはならないような)参加申し込みを戴き、厚く御礼申しあげると共に、安堵しているところである。

なお、理事を含めた役員のポストは、基本的に2年の任期(再任あり)で回しているが、特に執行部に関しては新陳代謝を図り、徐々に世代交代していく必要性を強く感じている。また、執行部の交代がサマーシンポジウムの総会決議後となるため、3月で終了する会計年度とのずれが生じてしまう所も補正が必要である(同年度の総会で認めていただき、新年度から役員任期をスタートさせる)。

第41回の理事会でもアナウンスさせて戴いた様に、今回の理事会・総会で、会長、副会長の交代人事を認めて戴き、2023年4月から新会長のもとで、新たな日本プロセス化学会の活動をスタートさせて戴きたく、以下、提案する次第である。

新会長 : 秋山隆彦(学習院大学)

新副会長: 赤井周司(大阪大学)

田上克也(エーザイ)

村瀬 徳晃(大正製薬)

(4) 2022 年度通常総会次第案について協議された

(5) 今後のシンポジウム予定について協議された

**2023 サマーシンポジウム**

日程：2023 年 8 月 3 日（木）～4 日（金）

会場：タワーホール船堀

世話人：砂塚敏明先生（北里大学）

村瀬徳晃先生（大正製薬（株））

**2023 ウィンターシンポジウム**

日程：2023 年 12 月 8 日（金）

会場：タワーホール船堀

世話人：中村嘉孝先生（第一三共（株））、

田中健 先生（東工大）

**2024 サマーシンポジウム**

日程：未定

会場：タワーホール船堀（予定）

世話人：稲越直人先生（（株）MICIN）、アカデミア世話人：未定

**2024 ウィンターシンポジウム**

日程・世話人：未定

（候補として大日本住友、スペラファーマ、カネカ、ナードケミカル、塩野義ファーマなど？）

会場：京都テルサ（予定）

世話人立候補 大歓迎！

**2025 サマーシンポジウム**

日程・世話人：未定

（候補として味の素、明治製菓、アステラス、富士フイルム和光など？）

会場：タワーホール船堀（予定）

世話人立候補 大歓迎！

**2025 ウィンターシンポジウム**

日程・世話人：未定（候補として大日本住友、スペラファーマ、カネカ、ナードケミカル、

塩野義ファーマなど？）

会場：京都テルサ（予定）

世話人立候補 大歓迎！

**2026 サマーシンポジウム**

日程・世話人：未定

会場：地方の基幹会場（新潟？）

世話人（国際シンポ？）

(6) 地区フォーラムについて協議された

2019年度の開催を最後に地区フォーラムは開催されていない。ポストあるいはウイズコロナをにらみ、東四国地区フォーラム、東海地区フォーラム、北陸地区フォーラムのご担当の皆様には、再度活発な地区フォーラム活動を再開して戴きたい。

(7) 国際シンポジウム (ISPC) について協議された

2023年8月2日(水)～4日(金)に開催を予定していた「第5回プロセス化学国際シンポジウム」は2年先送りし、2025年7月16日(水)～18日(金)に国立京都国際会館を予約していたが、令和4年3月17日～3月23日にメール会議で開催した第41回理事会において、2025年の国際シンポジウムを延期することを決定して戴き、キャンセル料を支払いキャンセルした。

その後、「公益財団法人市村清新技術財団」の「市村学術賞」を佐治木が受賞し、同財団から「国際技術交流助成」「国際研究集会開催助成(受賞後10年以内に開催される国際的に権威ある期間、団体が主催する国際研究集会)」に対し(審査の上で)助成を受けられることとなった。

会場を京都国際会館の様な高額な場所ではなく、地方中核都市で誘致に熱心な施設を利用すれば(例:朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター)、2026年～2027年のサマースシンポジウムを国際シンポジウム (ISPC) として開催できるのではないかと。

(8) その他

● 日本プロセス化学会出前講義の充実について協議された

(渉外委員会で検討し、様々なルール作りをする)

- (1) CPHI、国際医薬品開発等での講演も現状は日本プロセス化学会の理事や会員にお願いするケースがほとんどなので、「日本プロセス化学会出前講義」として開催する。
- (2) 化学工業日報社提案のオンライン出前講義、Youtube 配信、オンライン講演会等について協議された。

以上